

川内川水系流域治水協議会

計画：「水災害の自分事化」と流域に視野を広げることに関する令和6年度の取組内容を①②③の別に記入(横断可)

流域にも視野を広げる
(自分のためにも、みんなのためにも)

水災害・流域治水の広報

- 防災週間における普及啓発(テレビCM・SNS広告等)
- 懸垂幕やポスター等で土砂災害に関する啓発活動を実施
- 気象台HPで、水害の啓発を実施
- 河川協働団体と連携したマイ・タイムラインの作成・支援
- 地域住民、メディアとダムの管理及び操作等を伝えるための意見交換会「ダムとともに」
- 特定都市河川指定に関する住民説明会の実施
- 宮崎県防災の日における普及・啓発(イベント・テレビCM等)

連携活動

- 地域住民を対象とした水防災学習会の開催
- 関係機関における防災情報連携の強化
- 防災情報伝達における関係機関の連携強化
- ボランティアの受け入れ体制、業界団体等との協働体制の確立
- 川内川河川事務所と連携したマイ・タイムラインの作成・支援
- 報道機関を通じた水害の啓発や気象台が発表している情報等の説明
- 大雨や台風接近時には、メールやホットラインにより注意・警戒を呼びかけるほか、川内川河川事務所、鶴田ダムとともに台風説明会(報道向け・自治体関係者向け)を実施
- FMさつまさんだいのメディアとの連携による情報提供
- マスコミとの意見交換会の実施
- かたいもんそ会の実施

教育活動

- 防災啓発シンポジウムの開催
- 県・市町村職員、建設業者等の山地防災ヘルパーを対象とした山地防災ヘルパー研修(県全体：1回、166人、薩摩地区：1回、65人)
- 防災士養成研修の実施(R6.4月末時点 県内の防災士7,088人)【宮崎県】
- 学校、企業、自治会等への防災士出前講座の実施(年120回程度)
- 小中高校や地区住民への防災教育や出前講座の開催
- 自治体担当者へ防災気象情報への理解を深めていただくための取組として、防災気象情報を基に避難情報発令等の防災対応を疑似体験する気象防災ワークショップ等を実施
- 自主防災組織等からの依頼による防災講話や県との連携による研修会等
- 鶴田ダムインフラツーリズム
- ICT技術を活用した川内川水防災河川学習プログラムを作成

リスク情報等の提供

- 大雨(浸水・土砂災害)、洪水に関する情報等の提供
- 山地災害危険地区マップによる情報の提供
- 山地災害防止キャンペーンによる広報誌・パンフレット等の配布による広報活動の推進
- 山地災害危険地区等の防災に関する情報をDMや電話により「災害時要配慮者利用施設」及び関係住民へ周知
- 防災情報共有システムによる防災情報の共有
- 土砂災害警戒区域等の公表
- 洪水浸水想定区域図の作成・公表
- 住民自らの避難行動に資するためのリスク情報の共有
- 防災情報の提供、防災情報伝達機器等の充実
- 「はよみやん川内川」による情報提供及びシステム改良
- 浸水検知センサの設置
- 川内川河川事務所・気象台と共同で指定河川洪水予報を発表
- キキクルで浸水害、土砂災害、洪水災害の危険度分布を公表
- 防災気象情報の提供と段階的な改善

訓練活動

- 各種訓練、マニュアル等の充実
- マイ・タイムライン作成ワークショップ
- 自主防災組織強化に関する勉強会
- 自治会や自治体の実施する防災訓練への参画
- 関係機関と自主防災組織等が連携した要配慮者等の避難訓練への協力
- 出水期前に関係機関との合同巡視への参加や指定河川洪水予報発表表を含めた洪水対応演習の実施。

水防活動の支援

- 地域住民における自主防災組織等の強化
- 大規模災害が発生した後に早期復旧支援を行うために、自治体にJETT(JMA Emergency Task Team 気象庁防災対応支援チーム)を派遣し気象解説※庶気

水災害対策の支援

- 総合的な内水対策を検討(排水ポンプ設置位置の検討)
- 総合的な内水対策の実施(自動転倒ゲートの活用)
- 樋門樋管の無動力化、樋門・樋管・排水機場の遠隔化、自動化への検討、排水ポンプの小容量・多台数化検討

計画策定

- マイハザードマップ作成支援
- 要配慮者施設等の避難確保計画、個別避難計画の作成促進と避難の実効性確保
- 自主防災組織による地区防災計画の作成支援
- 気候変動を踏まえた治水計画(河川整備計画変更)への見直し
- 特定都市河川指定の検討
- 災害リスクを考慮した立地適正化計画の策定・見直し

①知る機会を増やす

水災害のリスクや、流域治水について知る機会を増やしていく。

②自分事と捉えることを促す

水災害のリスクが自分事と捉えられ、流域に視野が広がるきっかけを提供し、行動に向かう状況を創出する。

③行動を誘発する

水災害対策や、流域治水に関して実際に取り組みが行われるよう、個人、企業・団体の行動を誘発していく。

流域治水に取り組む主体が増える

#2 川内川水系流域治水協議会

取り組み・主対象	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
① 知る機会を増やす ◎連携活動 企業・団体 ◎水災害、流域治水の広報 地域 個人 企業・団体	▶ 出前講座 ▶ 報道機関を通じた水害の啓発や気象台が発表している情報等の説明 ▶ 大雨や台風接近時には、メールやホットラインにより注意・警戒を呼びかけるほか、川内川河川事務所、鶴田ダムとともに台風説明会（報道向け・自治体関係者向け）を実施			
	▶ SNSや広報誌等による水害・土砂災害に関する啓発活動 ▶ イベント、テレビ・SNS広告による防災啓発活動 ▶ 懸垂幕やポスター等で土砂災害に関する啓発活動を実施 ▶ 気象台HPで水害の啓発を実施	● 関係機関と連携したマイ・タイムラインの作成・支援 ● 特定都市河川指定に関する住民説明会		
② 自分事と捉えることを促す ◎教育活動 地域 個人 ◎リスク情報等の提供 地域 個人 企業・団体 ◎訓練活動 地域 個人	▶ 学校等への防災講話、出前講座、ワークショップ等の開催 ▶ 防災士の養成、防災士出前講座 ▶ 自治体や自主防災組織等からの依頼による防災講話や、県との連携による研修会等 ▶ 県・市町村職員、建設業者等の山地防災ヘルパーを対象とした山地	防災ヘルパー研修 ▶ 川内川水防災河川学習プログラムの活用推進 ▶ 鶴田ダムインフラツーリズム		● (イベント：秋の大鶴湖まつり開催)
	▶ 土砂災害警戒区域等の公表 ▶ 洪水浸水想定区域図の作成・公表 ▶ 防災情報共有システムによる防災情報の共有 ▶ 住民自らの避難行動に資するためのリスク情報の共有 ▶ 防災情報の提供、防災情報伝達機器等の充実 ▶ 「はよみやん川内川」による情報提供及びシステム改良		▶ 浸水検知センサの設置 ▶ キキクルで浸水害、土砂災害、洪水災害の危険度分布を公表※鹿気 ▶ 防災気象情報の提供と段階的な改善 ▶ 山地災害危険地区の情報提供 ▶ 川内川河川事務所と共同で指定河川洪水予報を発表	
	▶ 各種訓練、マニュアル等の充実 ▶ 関係機関と自主防災組織等が連携した要配慮者等の避難訓練への協力	● 出水期前に関係機関との合同巡視への参加や指定河川洪水予報発表を含めた洪水対応演習の実施。	▶ 自治体及び自治会が実施する防災訓練への参画 ● 自主防災組織強化に関する勉強会	
③ 行動を誘発する ◎水防活動の支援 地域 個人 企業・団体 ◎水災害対策の支援 個人 ◎計画策定 地域 個人 企業・団体	▶ 地域住民における自主防災組織等の強化 ▶ 大規模災害が発災した後に早期復旧支援を行うために、自治体にJETT（JMA Emergency Task Team 気象庁防災対応支援チーム）を派遣し気象解説 ▶ 総合的な内水対策を検討（排水ポンプ設置位置の検討、自動転倒ゲートの活用）			
	▶ 地域住民における自主防災組織等の強化			
	▶ マイハザードマップの作成支援 ▶ 要配慮者施設等の避難確保計画、個別避難計画の作成促進と避難の実効性確保 ▶ 自主防災組織による地区防災計画の作成支援		▶ 災害リスクを考慮した立地適正化計画の策定・見直し	

川内川水系流域治水協議会（鹿児島県、宮崎県）

結果報告： 具体的取り組み事例について取り上げつつも、参加団体数や参加者数等の定量的数字を把握し記入。

流域にも視野を広げる
(自分のためにも、みんなのためにも)

水災害・流域治水の広報

○宮崎県防災の日、防災週間における普及・啓発【宮崎県】



○懸垂幕やポスター等で土砂災害に関する啓発活動を実施【宮崎県】



教育活動

○県・市町村職員、建設業者等の山地防災ヘルパーを対象とした山地防災ヘルパー研修【鹿児島県】



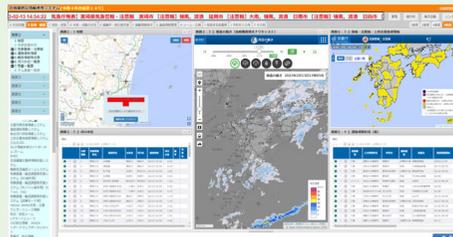
○防災士養成研修の実施 (R6.4月末時点 県内の防災士7,088人)【宮崎県】

○学校、自治会、企業等への防災士出前講座の実施 (年120回程度)【宮崎県】

○小中学校や地区住民への防災教育や流域治水などに関する出前講座の開催 (土砂災害防止教室 R6: 県内26校 993人予定)【宮崎県】
→流域治水に関する出前講座の実施 R6: 県内1校 50人(内数)
(土砂災害防止講座 R6: 県内24地区 780人予定)【宮崎県】
(流域治水に関する県政出前セミナーの実施 R6: 県内1校 10人)【鹿児島県】

リスク情報等の提供

○防災情報共有システムによる防災情報の共有【宮崎県・鹿児島県】



○洪水浸水想定区域図の作成【宮崎県・鹿児島県】
○土砂災害警戒区域等の公表【宮崎県・鹿児島県】
○山地災害危険地区マップによる情報の提供【鹿児島県】

計画策定

○マイハザードマップ作成支援(R6: 県内3地区で実施)【宮崎県】



①知る機会を増やす

水災害のリスクや、流域治水について知る機会を増やしていく。

②自分事と捉えることを促す

水災害のリスクが自分事と捉えられ、流域に視野が広がるきっかけを提供し、行動に向かう状況を創出する。

③行動を誘発する

水災害対策や、流域治水に関して実際に取り組みが行われるよう、個人、企業・団体の行動を誘発していく。

流域治水に取り組む主体が増える

川内川水系流域治水協議会(薩摩川内市、さつま町、伊佐市、湧水町、えびの市)

結果報告： 具体的取り組み事例について取り上げつつも、参加団体数や参加者数等の定量的数字を把握し記入。

流域にも視野を広げる
(自分のためにも、みんなのためにも)

連携活動

○防災情報伝達における関係機関の連携強化(3回/年)【えびの市】



防災リーダー連絡会 (えびの市)

教育活動

○防災教育、出前講座(各学校1回)【えびの市】



川内川に関する学習 (えびの市)

訓練活動

○マイ・タイムライン作成ワークショップ【さつま町】



マイタイムライン作成 (さつま町)
(個人・自主防災組織の行動確認)

○各種訓練(各自治体)



災害対策 (えびの市)

水防活動の支援

○地域住民における自主防災組織等の強化(1回/年)【えびの市】



加久藤地区 (えびの市)



向田排水機場の遠隔操作
(薩摩川内市)

リスク情報等の提供

○浸水センサの設置

薩摩川内市: 36箇所

えびの市: 3箇所



えびの市
浸水検知センサの設置

○水位計・監視カメラの設置、防災情報の提供【薩摩川内市】

水災害対策の支援

○総合的な内水対策を検討

計画策定

○災害リスクを考慮した立地適正化計画の策定・見直し【薩摩川内市】



災害対策本部訓練 (えびの市)

①知る機会を増やす

水災害のリスクや、流域治水について知る機会を増やしていく。

②自分事と捉えることを促す

水災害のリスクが自分事と捉えられ、流域に視野が広がるきっかけを提供し、行動に向かう状況を創出する。

③行動を誘発する

水災害対策や、流域治水に関して実際に取り組みが行われるよう、個人、企業・団体の行動を誘発していく。

流域治水に取り組む主体が増える

川内川水系流域治水協議会(鹿児島地方気象台、宮崎地方気象台)

結果報告： 具体的取り組み事例について取り上げつつも、参加団体数や参加者数等の定量的数字を把握し記入(横断可)。

流域にも視野を広げる
(自分のためにも、みんなのためにも)

連携活動

- 報道機関を通じた水害の啓発や気象台が発表している情報等の説明
- 大雨や台風接近時には、メールやホットラインにより注意・警戒を呼びかけるほか、川内川河川事務所、鶴田ダムとともに台風説明会(報道向け・自治体関係者向け)を実施

台風第10号に関する説明会
2024/8/27



水災害、流域治水の広報

- 気象台HP(ピックアップ情報)で、水害等に関する啓発を実施中



- OHPでeラーニング教材による大雨に関する啓発活動を実施中

教育活動

- 自主防災組織等からの依頼による防災講話や、県との連携による研修会等
- 学校等への出前講座、ワークショップ等の開催



地域住民向けの出前講座

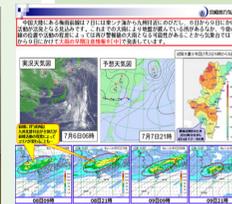


オンラインによる自治体職員向けの気象防災研修会



学生向けの出前講座

- 防災気象情報の利用普及を図る取組として、自治体担当者を対象にオンラインツールを活用した勉強会や定時気象解説を実施



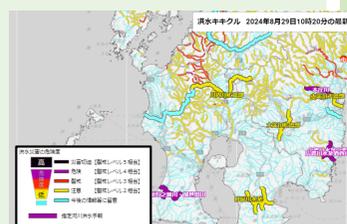
リスク情報等の提供

- 川内川河川事務所と共同で指定河川洪水予報を発表
- キキクルで浸水害、土砂災害、洪水災害の危険度分布を公表
- 防災気象情報の提供と段階的な改善



線状降水帯に関する講話

川内川水防・洪水予報連絡会幹事会、鶴田ダム放流説明会

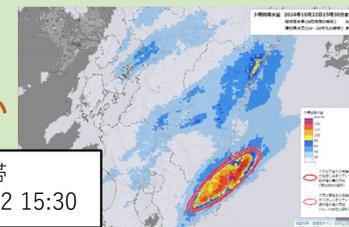


洪水キキクル

- 「顕著な大雨に関する気象情報」大雨による災害発生危険度が急激に高まる中で、線状降水帯により非常に激しい雨が同じ場所で降り続けている状況を解説

- 半日程度前の呼びかけ(予測)線状降水帯が発生するおそれが高まった場合、半日前～6時間前を目安に気象情報の中で呼びかける

線状降水帯
2024/10/22 15:30



水防活動の支援

- 自治体実施する防災訓練への参画
- 関係機関と自主防災組織等が連携した要配慮者等の避難訓練への協力
- 出水期前に関係機関との合同巡視への参加
- 大規模災害が発災した後に早期復旧支援を行うために、自治体にJETT(JMA Emergency Task Team 気象庁防災対応支援チーム)を派遣し気象解説

訓練活動

①知る機会を増やす

水災害のリスクや、流域治水について知る機会を増やしていく。

②自分事と捉えることを促す

水災害のリスクが自分事と捉えられ、流域に視野が広がるきっかけを提供し、行動に向かう状況を創出する。

③行動を誘発する

水災害対策や、流域治水に関して実際に取り組みが行われるよう、個人、企業・団体の行動を誘発していく。

流域治水に取り組む主体が増える

川内川水系流域治水協議会(国土交通省)

結果報告： 具体的取り組み事例について取り上げつつも、参加団体数や参加者数等の定量的数字を把握し記入。

流域にも視野を広げる
(自分のためにも、みんなのためにも)

連携活動

- 地域住民、メディアとダムの管理及び操作等を伝えるための意見交換会を実施(1回/年)
- 重要水防箇所の合同巡視(1回/年)



語りもんそ会の実施



鶴田ダムとともに水害に強い地域づくりを考える意見交換会



流域治水の広報

- OFMさつまませんだい等のメディアとの連携による情報提供



教育活動

- 防災教育、出前講座の実施
- 鶴田ダムインフラツアーリズム
- ICT技術を活用した川内川水防災河川学習プログラムの作成



試行授業の状況(川内川水防災河川学習プログラム) 出前講座

リスク情報等の提供

- 「はよみやん川内川」による情報提供及びシステム改良



○気象台との合同記者会見



訓練活動

- 自主防災組織強化に関する勉強会



水防活動の支援

- 自治会が実施する防災訓練への参画(東郷地区避難訓練)



計画策定

- 特定都市河川指定に向けた住民説明会



- 気候変動を踏まえた治水計画(河川整備計画変更)への見直し

①知る機会を増やす

水災害のリスクや、流域治水について知る機会を増やしていく。

②自分事と捉えることを促す

水災害のリスクが自分事と捉えられ、流域に視野が広がるきっかけを提供し、行動に向かう状況を創出する。

③行動を誘発する

水災害対策や、流域治水に関して実際に取り組みが行われるよう、個人、企業・団体の行動を誘発していく。

流域治水に取り組む主体が増える